

繪本甲越軍記

三

遠  
2214  
3





真田彈正忠車隆之像

天文十一年晴信公ともみ入道徳斎と号す  
川中津教之軍務の内永禄四年  
九月十日大合戦の陣

①越後方  
小倉詰の  
將直江山城  
守の陣  
やぶり大成功  
世に  
雷名  
とらるる  
せり

門遠13  
22/4  
3



幸隆息男同前

真田昌幸之像

大会戦の首初陣

於越後

陣を破る  
大木の名と  
あふせり

上ノ同其國

おれ  
とも



真田源太左門之像

一徳斎と添て

△中途の去り  
越後方々

△此の時  
騎射  
て出入功  
たより  
と七  
敵の目一徳  
西茶山  
時信玄か  
あ、い人  
三百騎を  
て我軍本  
迫込伏

川中島軍記第六編摺目録

越後方小荷詰大合戦の事そらうちあやむ 双方鎗合の圖

直江山城守勇戦の事 同其圖

川中島大合戦 西條山向る武田勢引込の事 同圖

真田源太左エ門勇戦の事 同圖

真田昌幸初陣 高名の事 同其圖

石黒五郎兵衛主人の首を取る事 同圖

甘粕近江守取の事 同其圖

小幡又兵衛高名の事 同圖

真田源太左エ門勇戦の事 同其圖

武田信玄勝岡をとり奉る事 同陣中之圖

上杉謙信馬のり之の事

同さへ川をのり越るの圖

武田信玄勝岡をとり奉る事 同陣中之圖

義信父子のあさ川中島合戦以後不和の事

徳江孫四郎薙刀洋領の圖

川中島合戦有功の諸將そらうちあやむ 感状の事

謙信川中島合戦の容解そらうちあやむ 穿鑿の事

宇佐美駿河守忠死の事

武田の諸將謙信と討りしやと後悔の事

真田一徳齋謙信をむしる事

信玄甲冑そらうちあやむ 帰陣の事

摺目録終





今さらやう山の  
 みまの世の山を  
 さいせりやうゆ  
 代に死なれりて  
 たけみかえ  
 ふるれ  
 目もまら  
 され  
 さい  
 さい

けりきたるつ死  
 死にたれせん  
 つてたうひけ  
 目もまら  
 大て記され

けりきたるつ死  
 死にたれせん  
 つてたうひけ  
 目もまら  
 大て記され

けりきたるつ死  
 死にたれせん  
 つてたうひけ  
 目もまら  
 大て記され



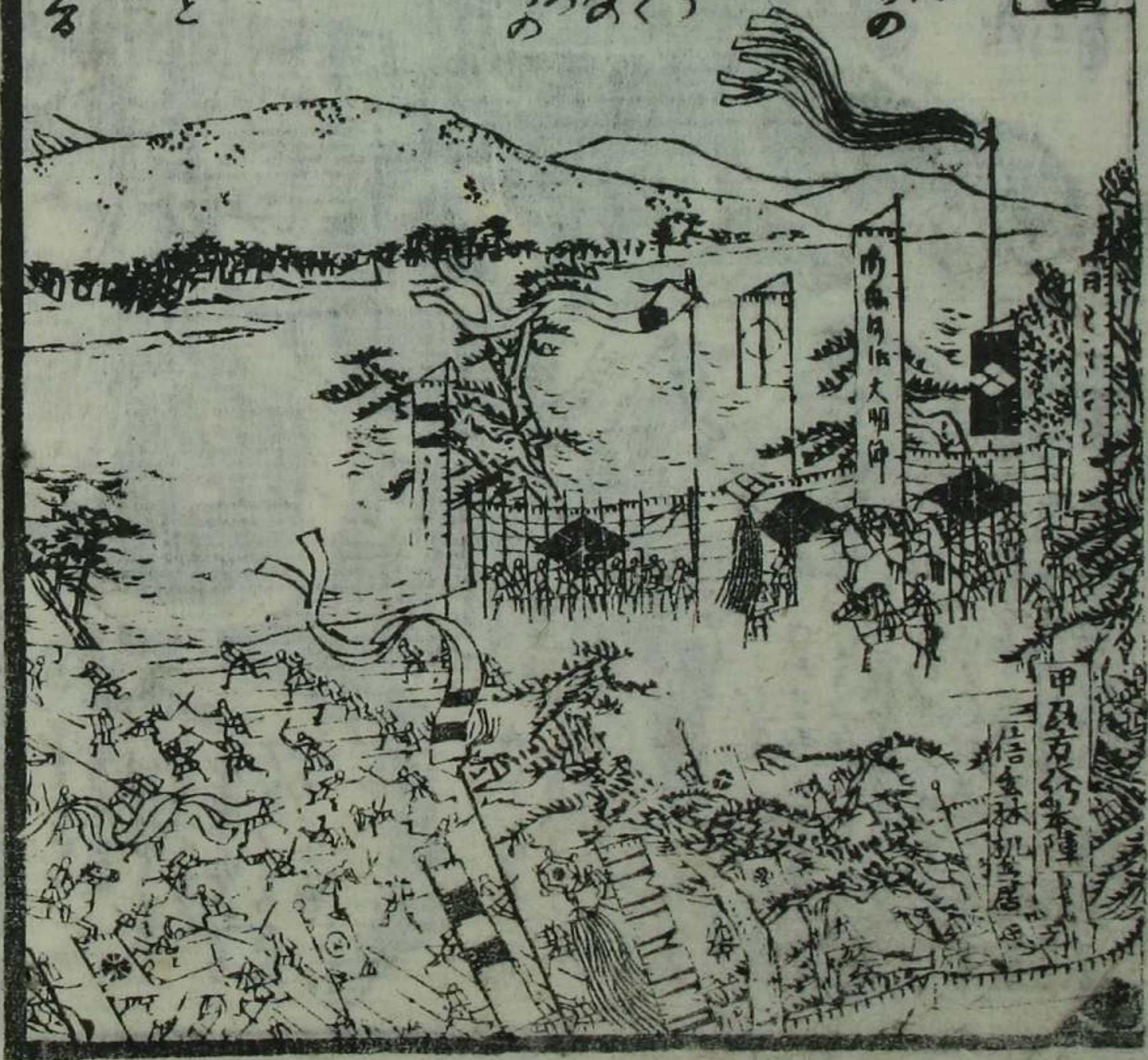
直江山城守兼備

直江山城守兼備  
 直江山城守兼備  
 直江山城守兼備

直江山城守兼備  
 直江山城守兼備  
 直江山城守兼備

川中嶋大合戦細見之圖

信長と秀吉の戦い。川中嶋大合戦の細見。徳川家康の軍勢が豊臣勢を打ち破る様子。川中嶋の地形と陣地が描かれている。



徳川家康の軍勢が豊臣勢を打ち破る様子。川中嶋の地形と陣地が描かれている。この戦いは、徳川家康の戦術が勝利の鍵となった。











かくてその日さうのころ  
 ねらひやうすくのさしを  
 けれんそくはあつた  
 さかたんとそくあつた  
 ねらひやうすくを  
 りるべしとせむせむ  
 からんをかへんあつた  
 東のけんをいへんあつた  
 つまじあつたあつた  
 さそ又甲及せから  
 正のまをいへんあつた  
 のまのちをいへんあつた  
 そのまのちをいへんあつた  
 せん次とをいへんあつた  
 うちをいへんあつた  
 りるまのちをいへんあつた  
 のまのちをいへんあつた  
 つまじあつたあつた  
 さそ又甲及せから  
 正のまをいへんあつた  
 のまのちをいへんあつた  
 そのまのちをいへんあつた  
 せん次とをいへんあつた  
 うちをいへんあつた  
 りるまのちをいへんあつた  
 のまのちをいへんあつた



そのまのちをいへんあつた  
 山とをいへんあつた  
 ねらひやうすくを  
 りるべしとせむせむ  
 からんをかへんあつた  
 東のけんをいへんあつた  
 つまじあつたあつた  
 さそ又甲及せから  
 正のまをいへんあつた  
 のまのちをいへんあつた  
 そのまのちをいへんあつた  
 せん次とをいへんあつた  
 うちをいへんあつた  
 りるまのちをいへんあつた  
 のまのちをいへんあつた

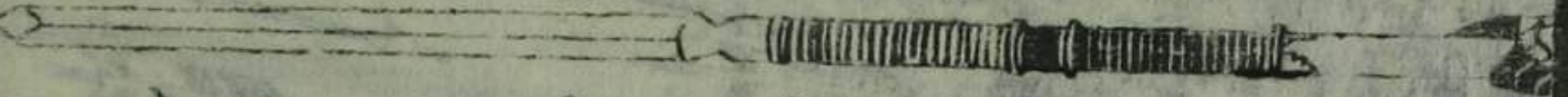


川中六

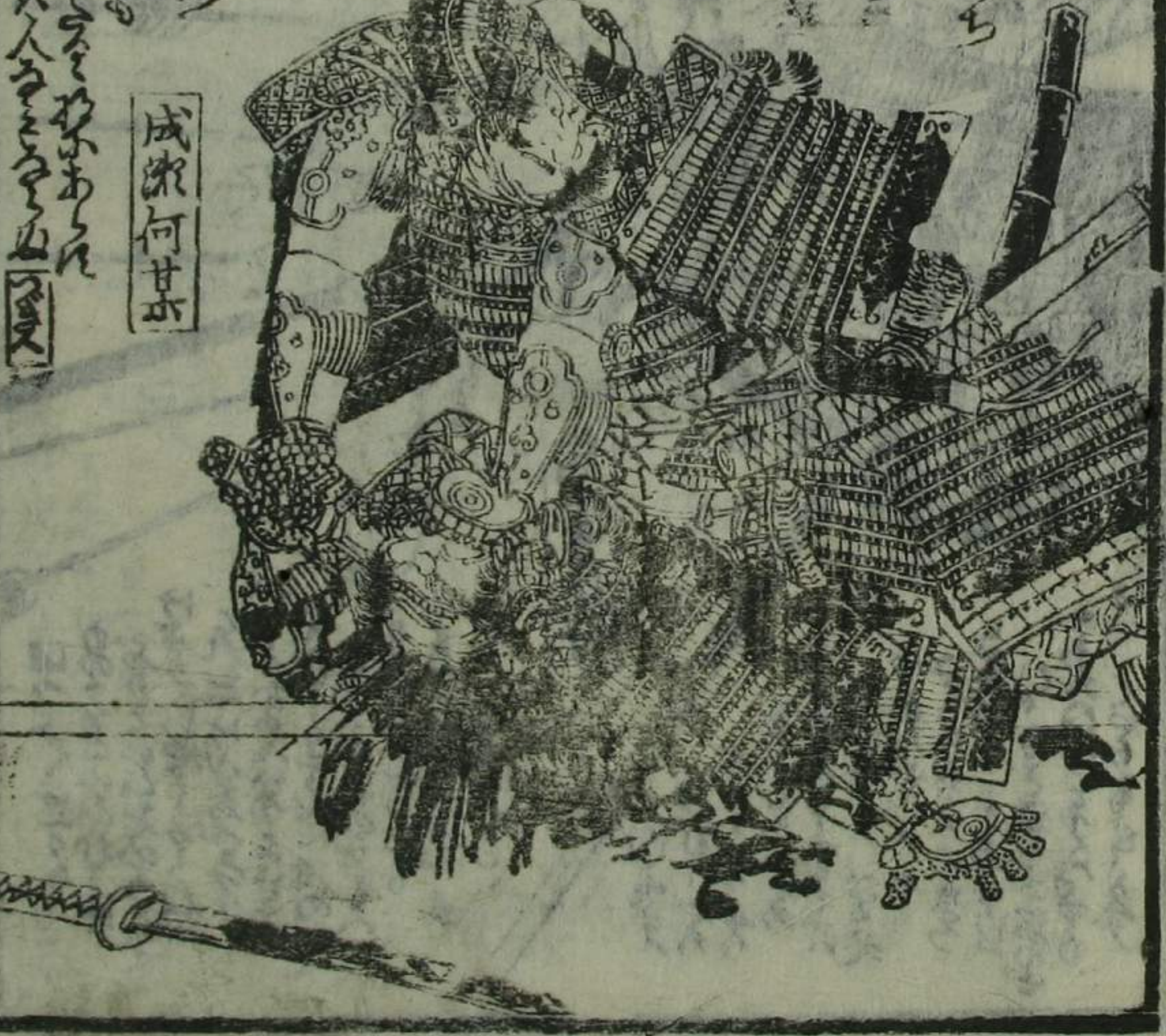




此の甲は、大いに  
 堅く、且、軽し  
 故に、戦場に  
 最も、利あり  
 其の、作り  
 妙なり、と  
 評す、人あり  
 其の、甲の  
 堅さ、を、試す  
 者、多し、と  
 云ふ、事あり  
 其の、甲の  
 軽さ、を、試す  
 者、多し、と  
 云ふ、事あり



此の甲、大いに  
 堅く、且、軽し  
 故に、戦場に  
 最も、利あり  
 其の、作り  
 妙なり、と  
 評す、人あり  
 其の、甲の  
 堅さ、を、試す  
 者、多し、と  
 云ふ、事あり  
 其の、甲の  
 軽さ、を、試す  
 者、多し、と  
 云ふ、事あり



成瀬何某  
 此の甲、大いに  
 堅く、且、軽し  
 故に、戦場に  
 最も、利あり



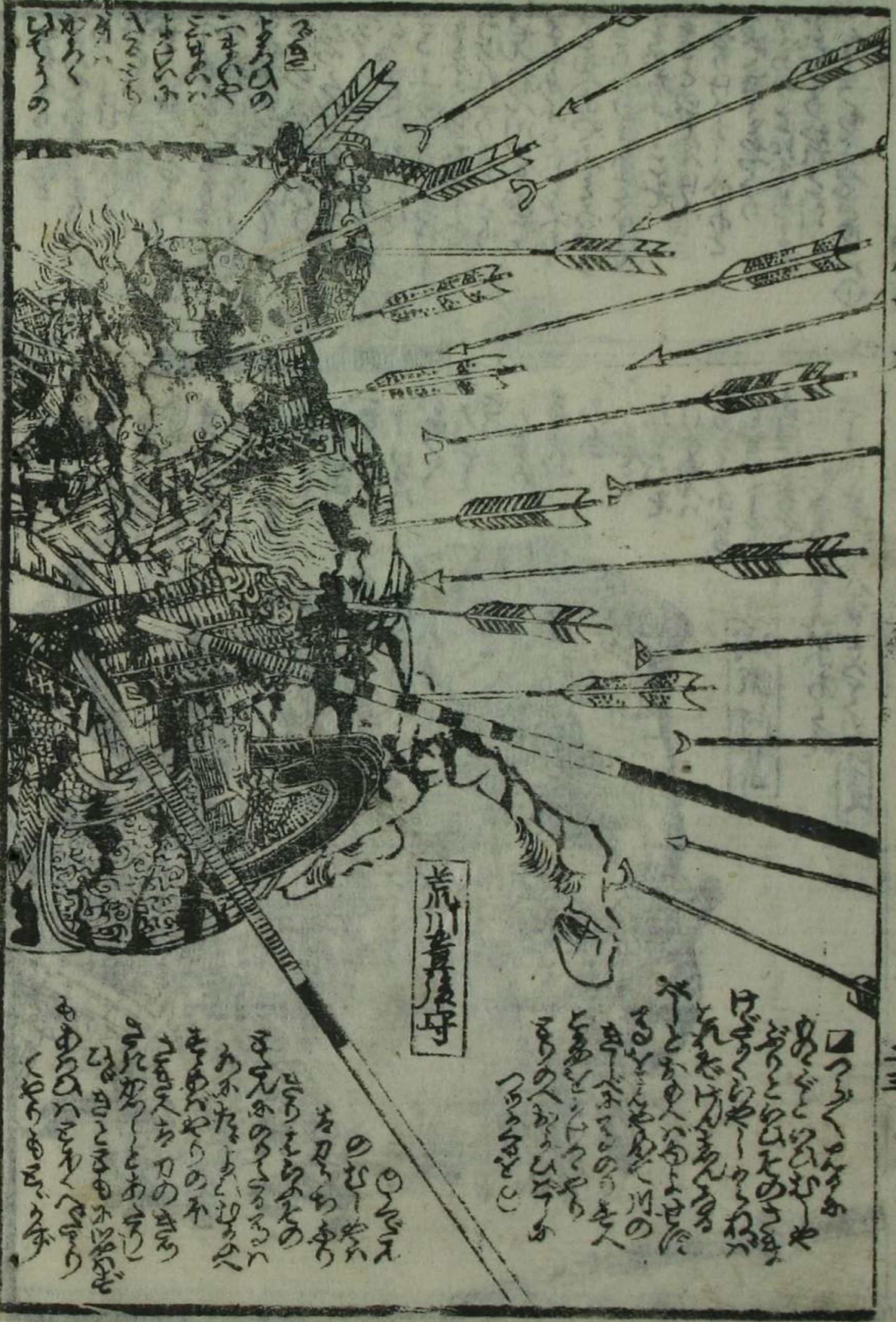
徳角、源、同心  
 石黒、五、郎、兵衛

此の甲、大いに  
 堅く、且、軽し  
 故に、戦場に  
 最も、利あり

此の甲、大いに  
 堅く、且、軽し  
 故に、戦場に  
 最も、利あり  
 其の、作り  
 妙なり、と  
 評す、人あり  
 其の、甲の  
 堅さ、を、試す  
 者、多し、と  
 云ふ、事あり  
 其の、甲の  
 軽さ、を、試す  
 者、多し、と  
 云ふ、事あり

此の甲、大いに  
 堅く、且、軽し  
 故に、戦場に  
 最も、利あり

諸角、首、領



荒川青原守

このころは  
西軍の  
軍勢が  
大いに  
上つて  
来ると  
言はれ  
た

○ついでに  
あつた  
はたけ  
とて  
あつた  
とて  
あつた  
とて

○ついでに  
あつた  
はたけ  
とて  
あつた  
とて  
あつた  
とて



このころは  
西軍の  
軍勢が  
大いに  
上つて  
来ると  
言はれ  
た

○ついでに  
あつた  
はたけ  
とて  
あつた  
とて  
あつた  
とて

○ついでに  
あつた  
はたけ  
とて  
あつた  
とて  
あつた  
とて



○ついでに  
あつた  
はたけ  
とて  
あつた  
とて  
あつた  
とて















二  
中  
大

二十

あふくはあむせしは日まらるも  
 けつは死たてあま  
 へて居りあつ希  
 う入るをふひと  
 ぬるうひのりぞそ  
 はひをいひあひ  
 あまののりえてそ  
 て死あまとも又ひ  
 とまかひひたあまらるる  
 へ日れこれらえらるるの  
 女を切れぬの  
 そりまよ  
 するの

あふくはあむせしは日まらるも  
 けつは死たてあま  
 へて居りあつ希  
 う入るをふひと  
 ぬるうひのりぞそ  
 はひをいひあひ  
 あまののりえてそ  
 て死あまとも又ひ  
 とまかひひたあまらるる  
 へ日れこれらえらるるの  
 女を切れぬの  
 そりまよ  
 するの

あふくはあむせしは日まらるも  
 けつは死たてあま  
 へて居りあつ希  
 う入るをふひと  
 ぬるうひのりぞそ  
 はひをいひあひ  
 あまののりえてそ  
 て死あまとも又ひ  
 とまかひひたあまらるる  
 へ日れこれらえらるるの  
 女を切れぬの  
 そりまよ  
 するの



明神

法性院信長

あふくはあむせしは日まらるも  
 けつは死たてあま  
 へて居りあつ希  
 う入るをふひと  
 ぬるうひのりぞそ  
 はひをいひあひ  
 あまののりえてそ  
 て死あまとも又ひ  
 とまかひひたあまらるる  
 へ日れこれらえらるるの  
 女を切れぬの  
 そりまよ  
 するの

あふくはあむせしは日まらるも  
 けつは死たてあま  
 へて居りあつ希  
 う入るをふひと  
 ぬるうひのりぞそ  
 はひをいひあひ  
 あまののりえてそ  
 て死あまとも又ひ  
 とまかひひたあまらるる  
 へ日れこれらえらるるの  
 女を切れぬの  
 そりまよ  
 するの

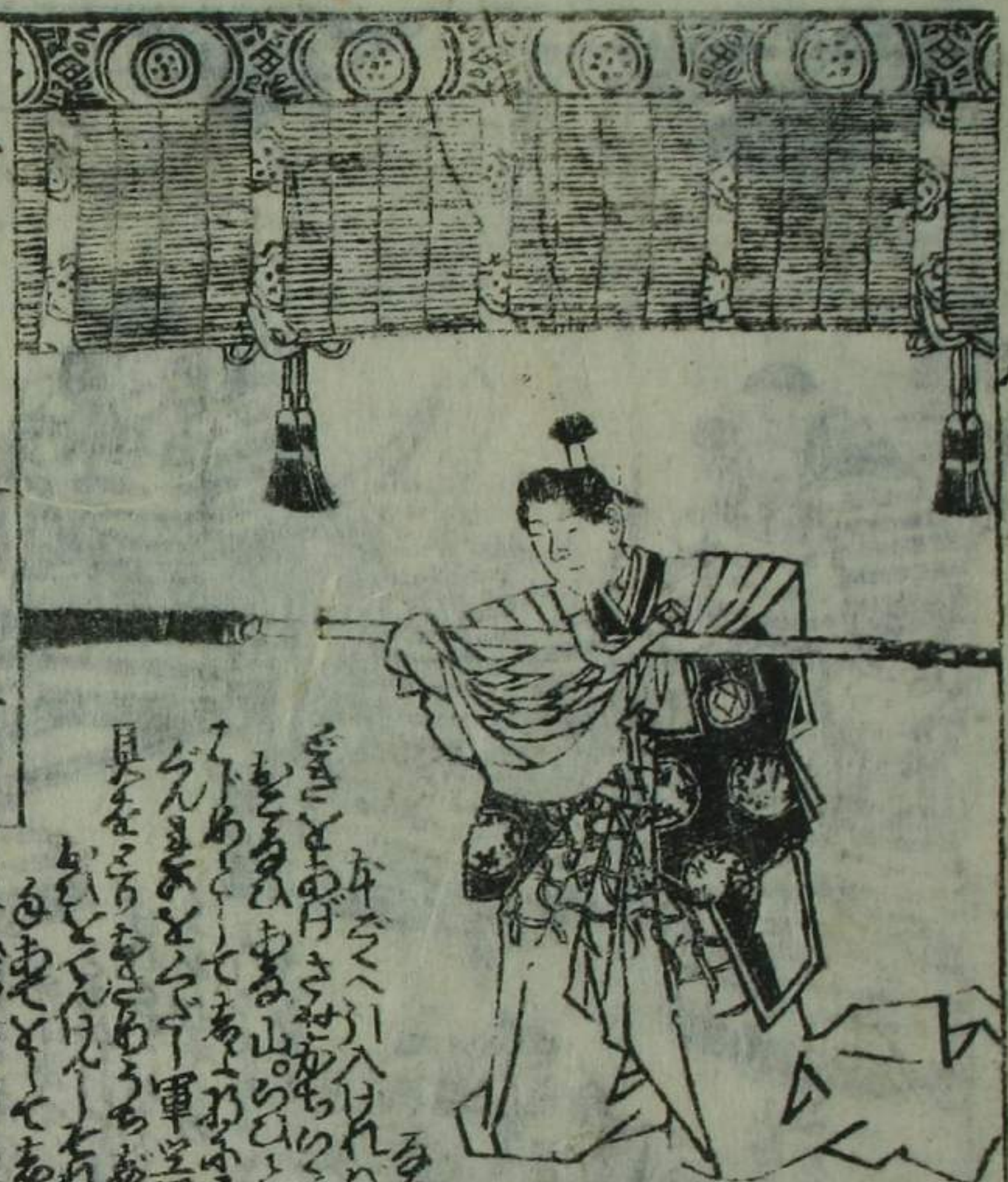
あふくはあむせしは日まらるも  
 けつは死たてあま  
 へて居りあつ希  
 う入るをふひと  
 ぬるうひのりぞそ  
 はひをいひあひ  
 あまののりえてそ  
 て死あまとも又ひ  
 とまかひひたあまらるる  
 へ日れこれらえらるるの  
 女を切れぬの  
 そりまよ  
 するの



武田四郎勝頼公之像



甲斐七



玉蘭齋譯  
貞秀画圖

本はへり入れられしものを  
 もとのまゝにわき山ゆきを  
 つかひておきしものを  
 つかひておきしものを  
 具をとりあはせしものを  
 おきしものを  
 おきしものを  
 おきしものを  
 おきしものを

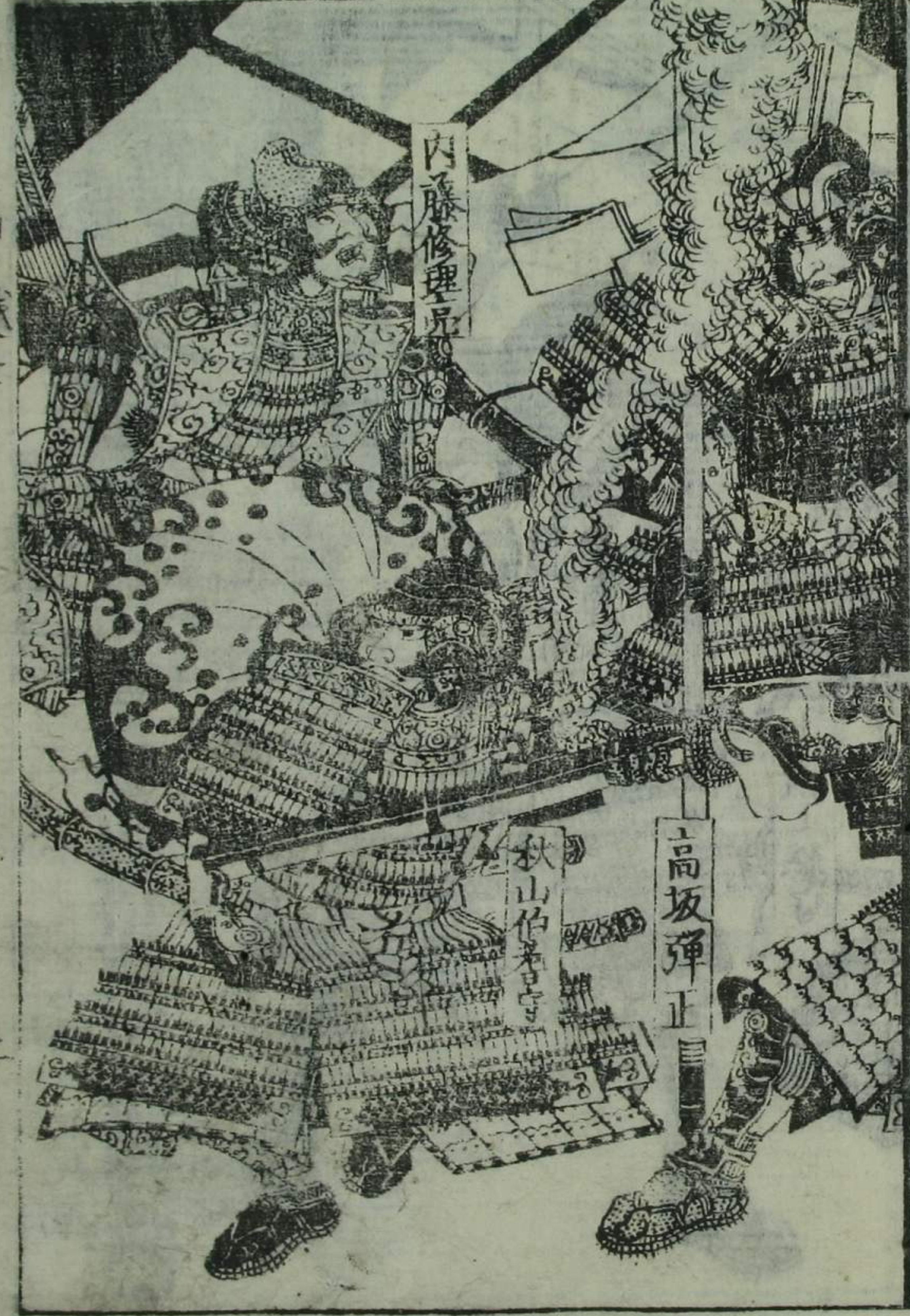
このころは...  
 まゝにわき山ゆきを  
 つかひておきしものを  
 つかひておきしものを  
 具をとりあはせしものを  
 おきしものを  
 おきしものを  
 おきしものを  
 おきしものを

鉄江孫郎

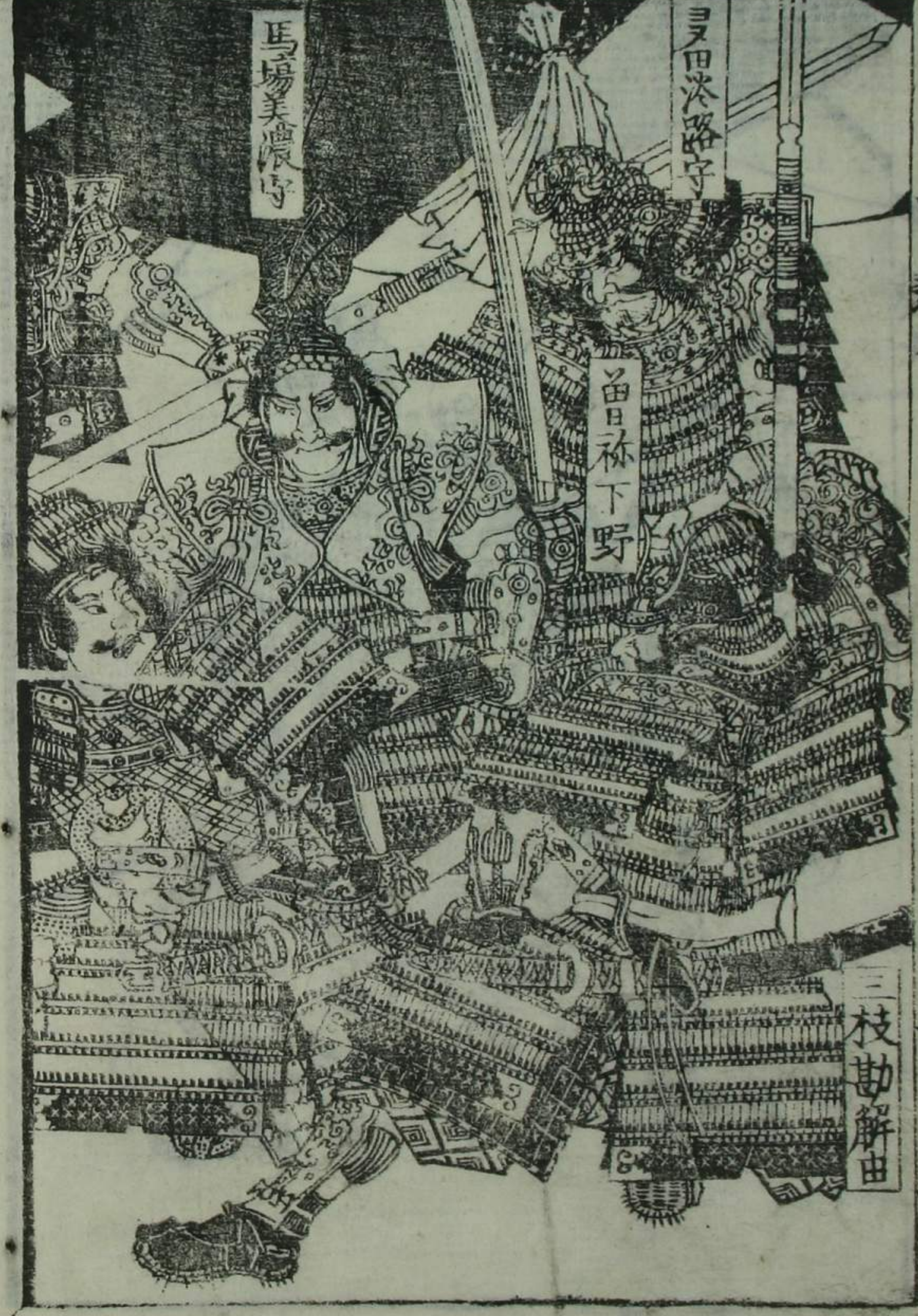


本はへり入れられしものを  
 まゝにわき山ゆきを  
 つかひておきしものを  
 つかひておきしものを  
 具をとりあはせしものを  
 おきしものを  
 おきしものを  
 おきしものを  
 おきしものを

諸雄將士列座之圖



前編石田武田家之英



同武田方諸將之像



武田道遠軒

土屋右衛門

原美濃守

甲越七

其二



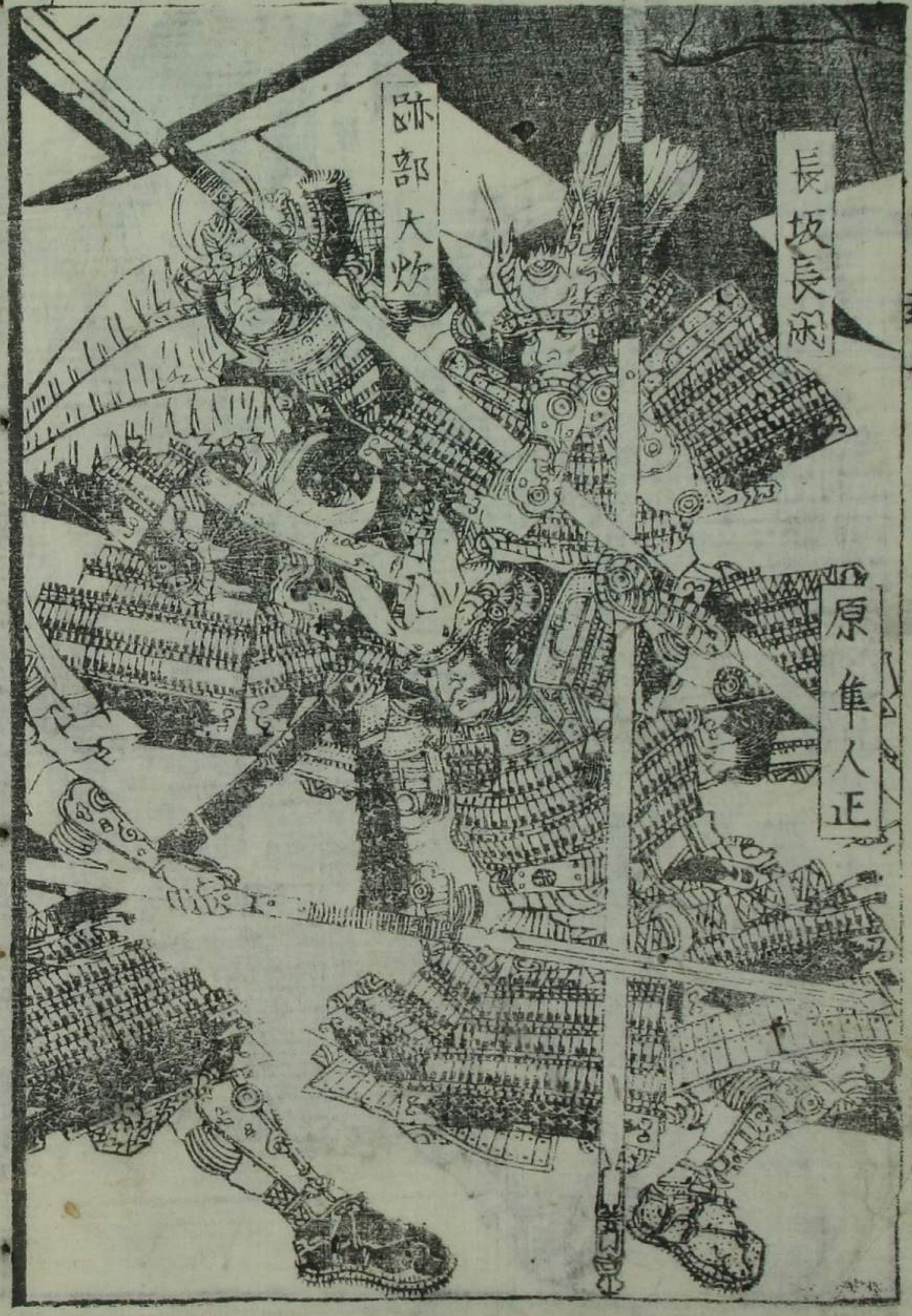
横山重兵衛

小幡上総守

山縣三郎兵衛



同武田方諸將 其三



甲越軍紀七編總目錄

武田信玄公松山城攻の事 同其圖

武田方米倉丹波守竹田の事 同其圖

同 日向九井村丸の事 同其圖

甘利左衛門米倉丸攻の事 同其圖

上杉謙信公松山城結の事 同其圖

同其圖

謙信公山の根の城へ押寄せの事

山の根の城居城の事 同其圖

謙信公前橋の城を長尾謙忠とすの事 同其圖

前橋の城を合戦とすの事 同其圖

武田方城の忠兵衛血戦討死の事 同其圖

城の守屋長尾城の退る勇戦の事

飯富之舟を流すの事 同其圖

大焚指物と取らすの事 同其圖

戦中の圍の推名武田家へ降参の事 同其圖

上野和田の城合戦の事 同其圖

横田守兵衛去湯鉄砲の事 同其圖

横田守兵衛去湯謙信公とねらふの事 同其圖

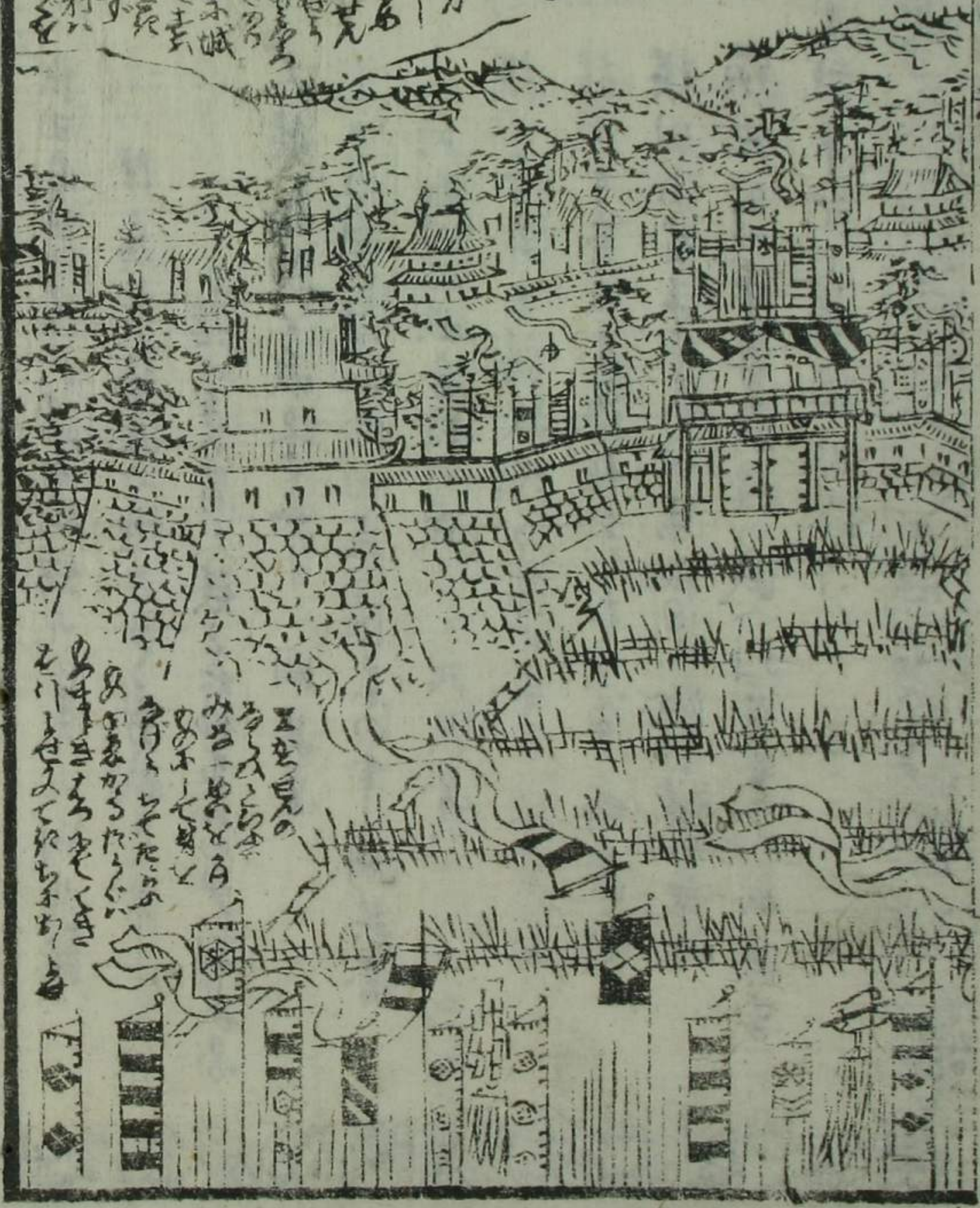
横田出生ま生すの事 同其圖

横田公の軍勢前橋の城へ引らすの事 同其圖

甲越軍紀七編總目錄

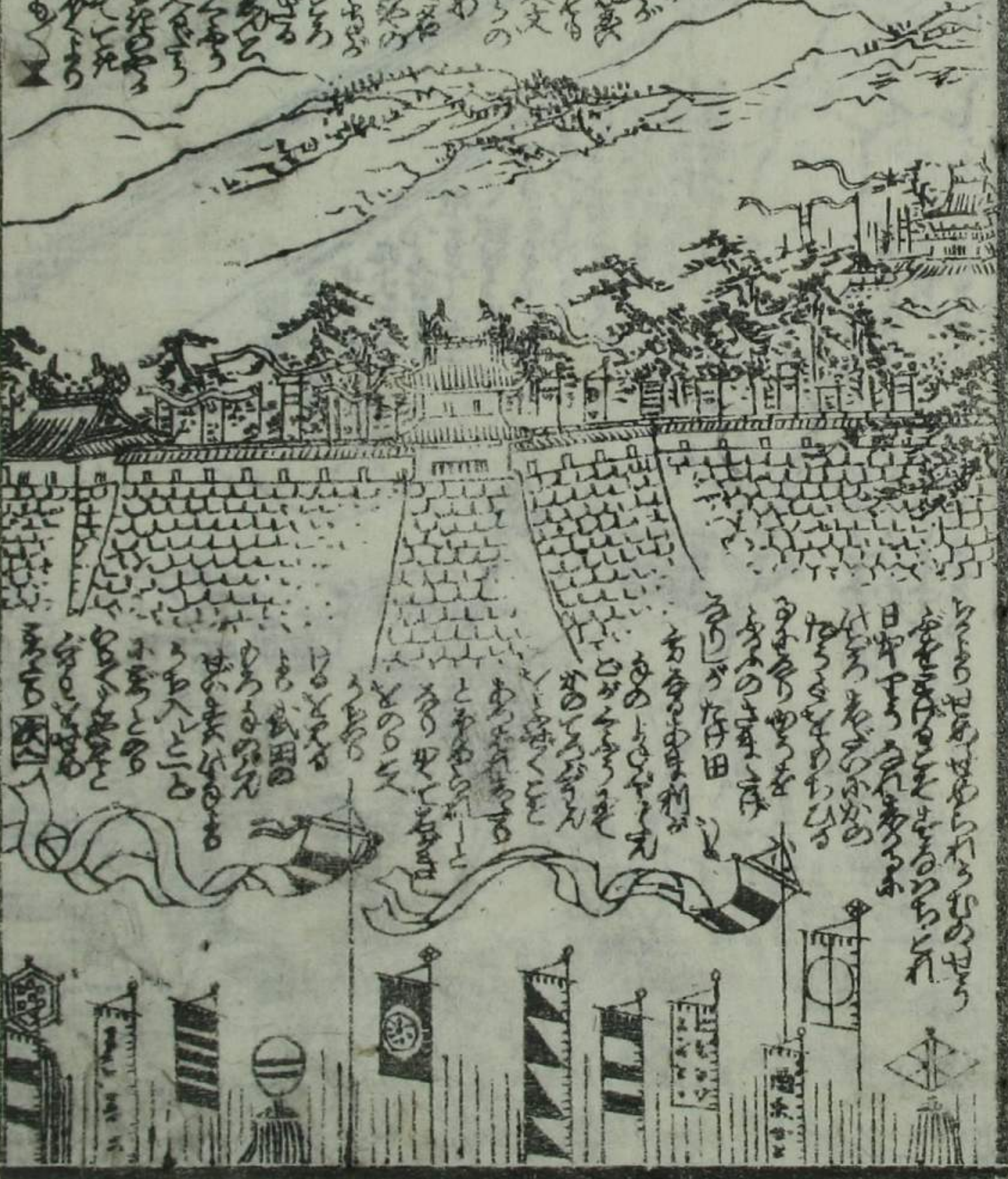
甲越

赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田



赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田

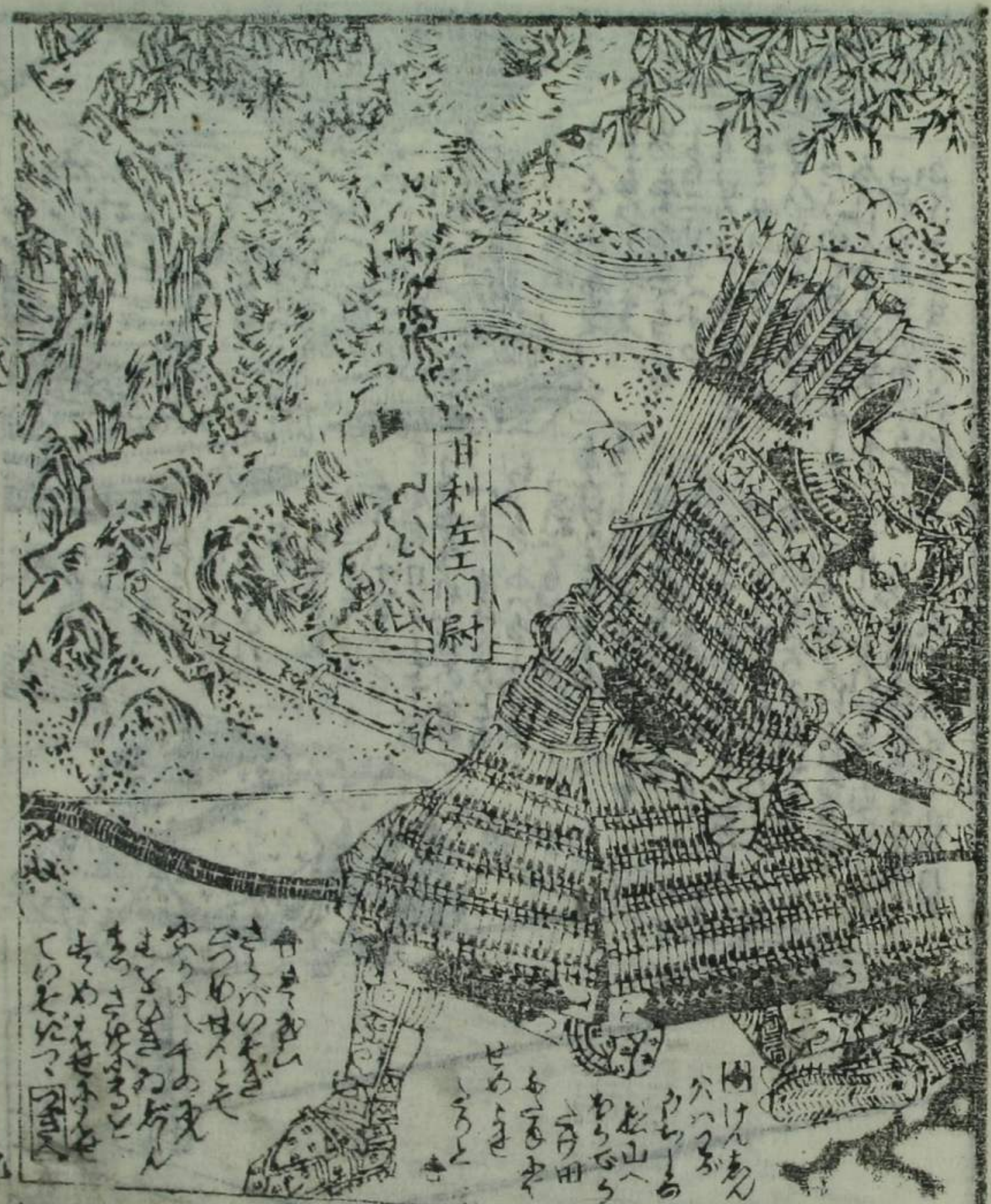
赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田



赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田  
 赤木又  
 存田







目利左工門尉  
 舟を造るは  
 さうばのりや  
 べつりやん  
 まのさばり  
 ついてやん  
 りん  
 こ  
 ぎん  
 けん  
 山へ  
 りん  
 田  
 せ  
 と

舟のつくり  
 まは平也  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは



米倉彦次郎  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは

舟のつくり  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは  
 りんは



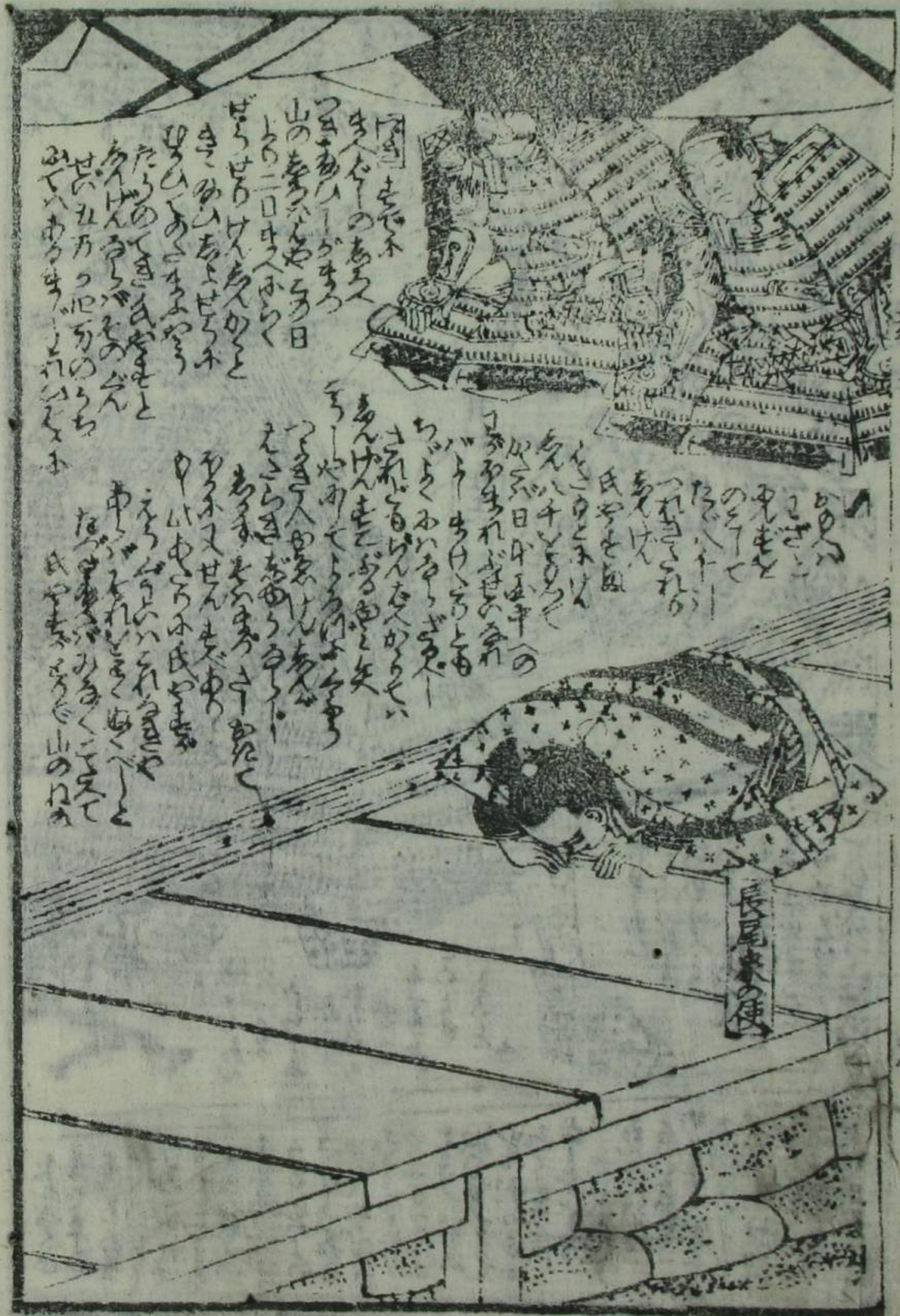
武田信玄公

先づしくよんふあて  
みともよなせいのあつら  
ありごとしと

あつとヤスハニ千累  
あてこれち日たりのふ  
つらるととヤス  
けんを

あつとヤス  
たあふふあつ  
日本末のうらふ  
ふるふをふ  
つらるととヤス  
けんを

あつとヤス  
たあふふあつ  
日本末のうらふ  
ふるふをふ  
つらるととヤス  
けんを



長尾景春の便

あつとヤス  
たあふふあつ  
日本末のうらふ  
ふるふをふ  
つらるととヤス  
けんを

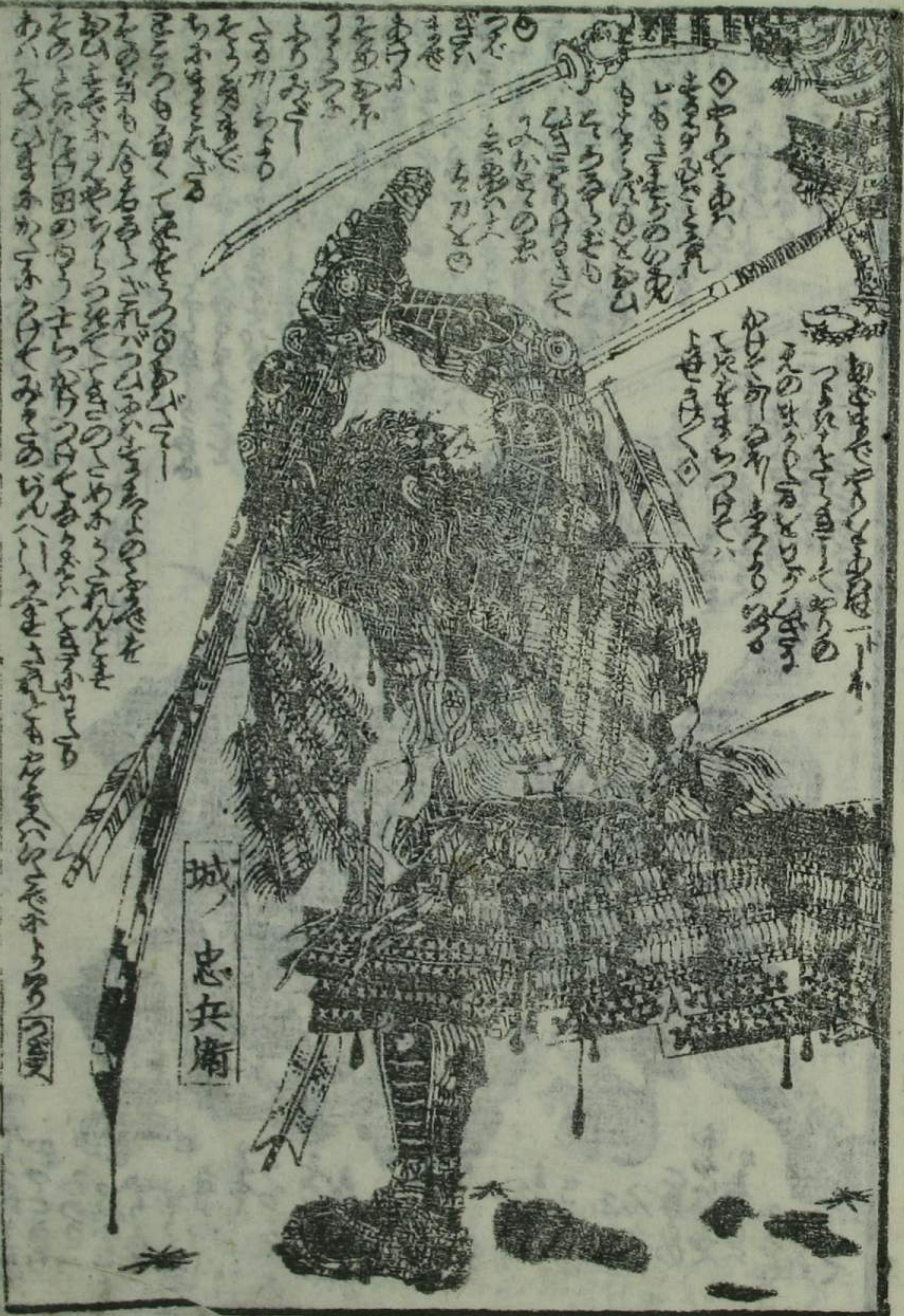
あつとヤス  
たあふふあつ  
日本末のうらふ  
ふるふをふ  
つらるととヤス  
けんを

あつとヤス  
たあふふあつ  
日本末のうらふ  
ふるふをふ  
つらるととヤス  
けんを

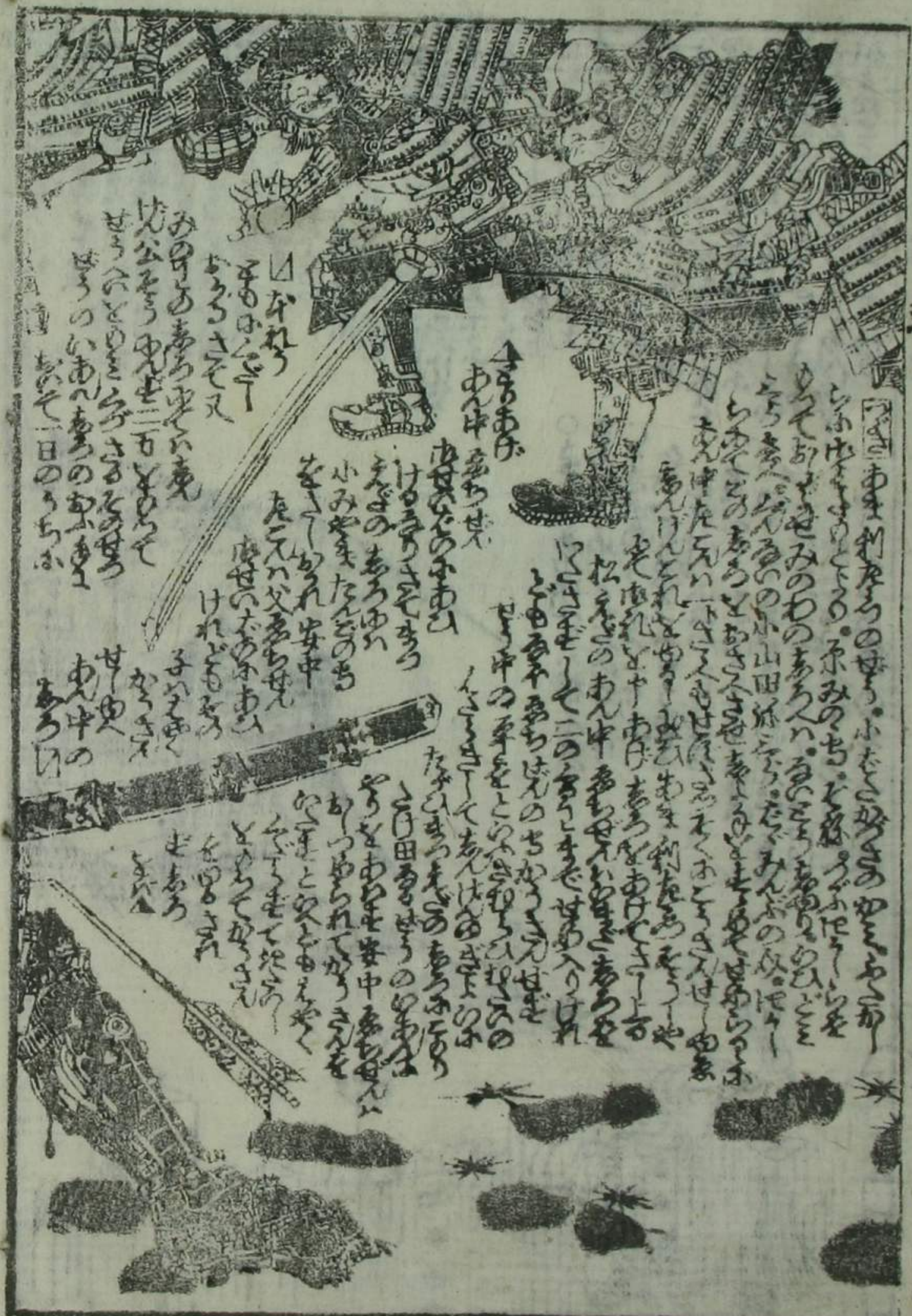






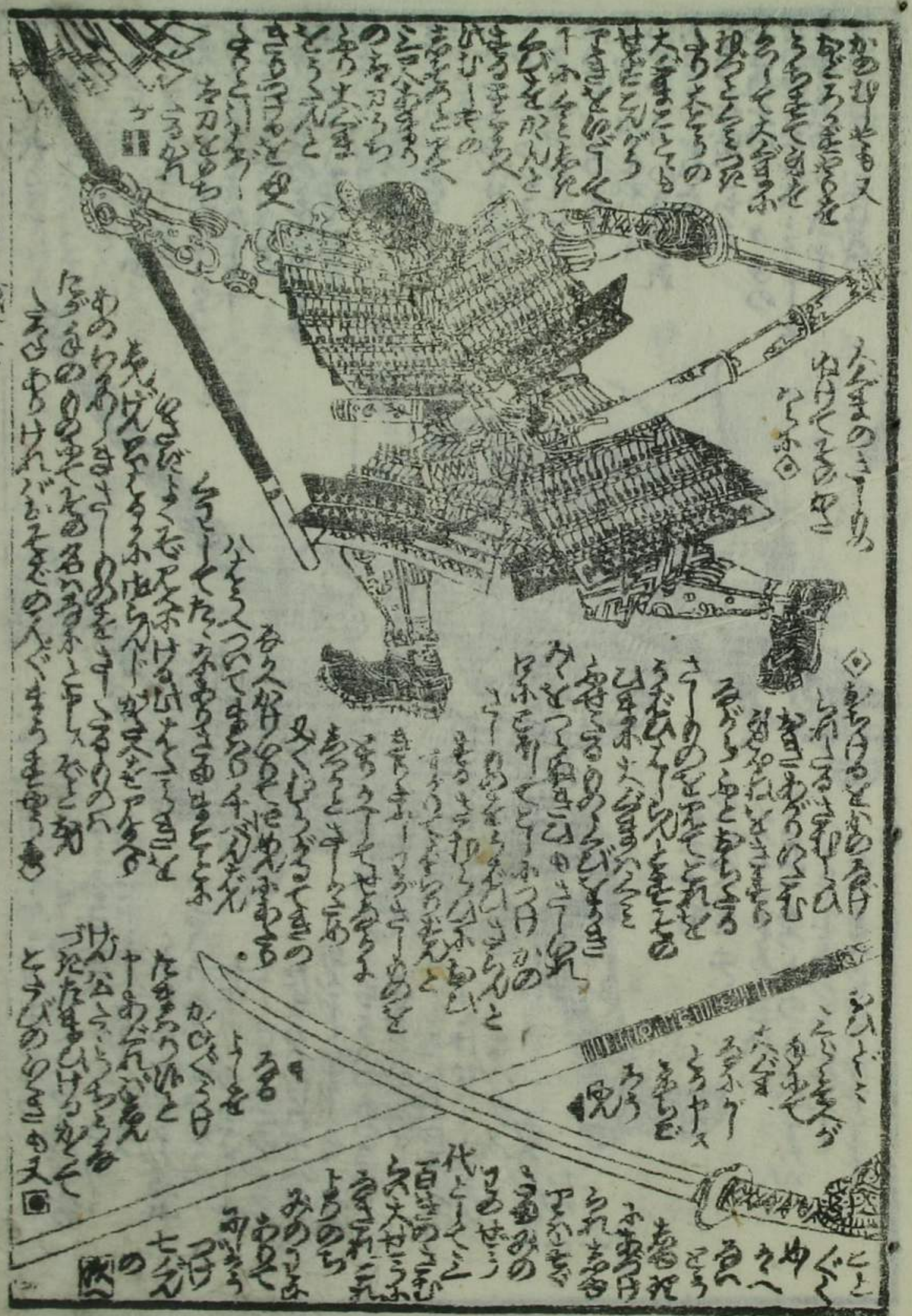
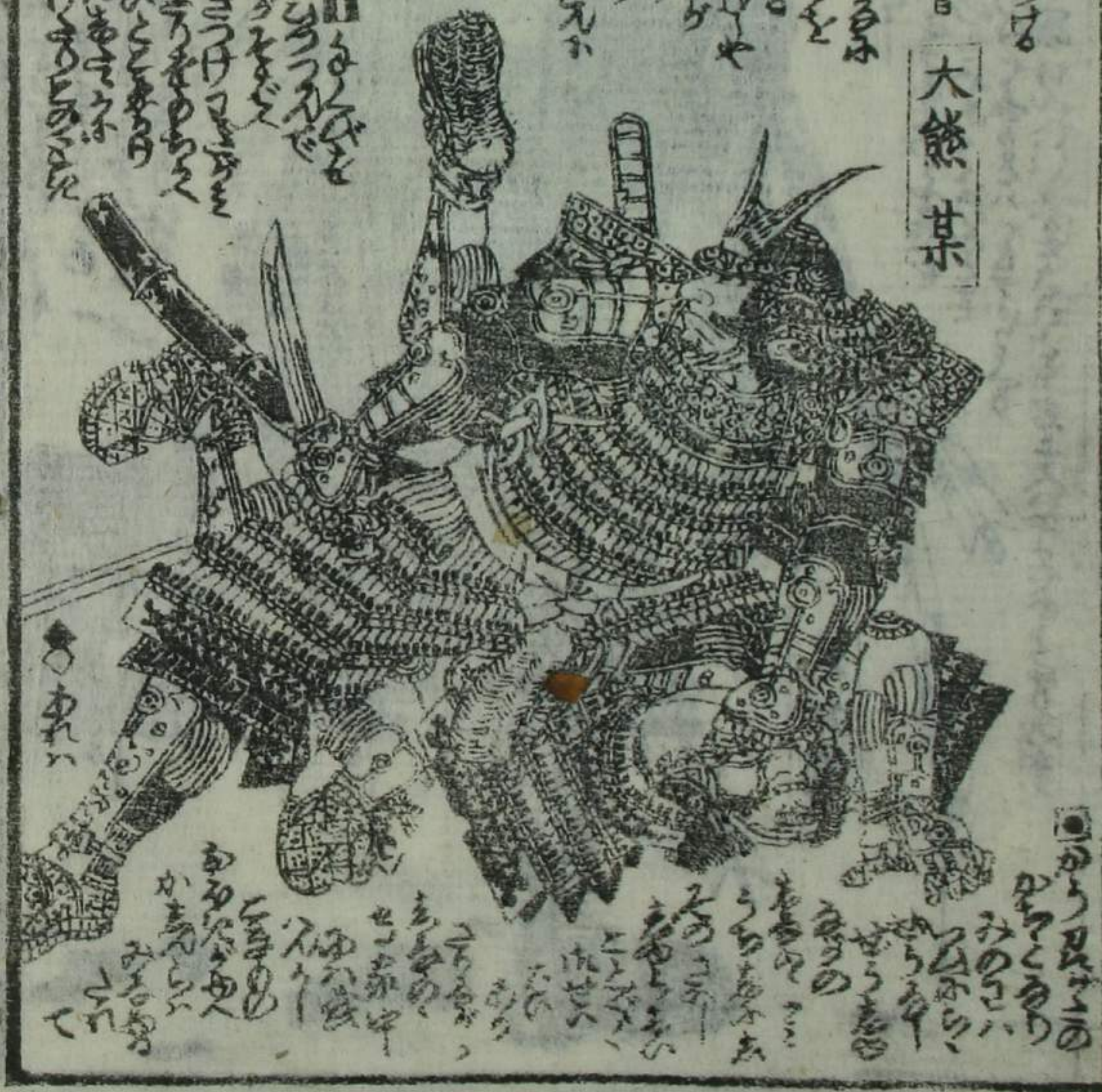


城 忠兵衛  
 此の城は...  
 忠兵衛...  
 城...  
 忠兵衛...



城 忠兵衛  
 此の城は...  
 忠兵衛...  
 城...  
 忠兵衛...

この世はまじく... 大熊某



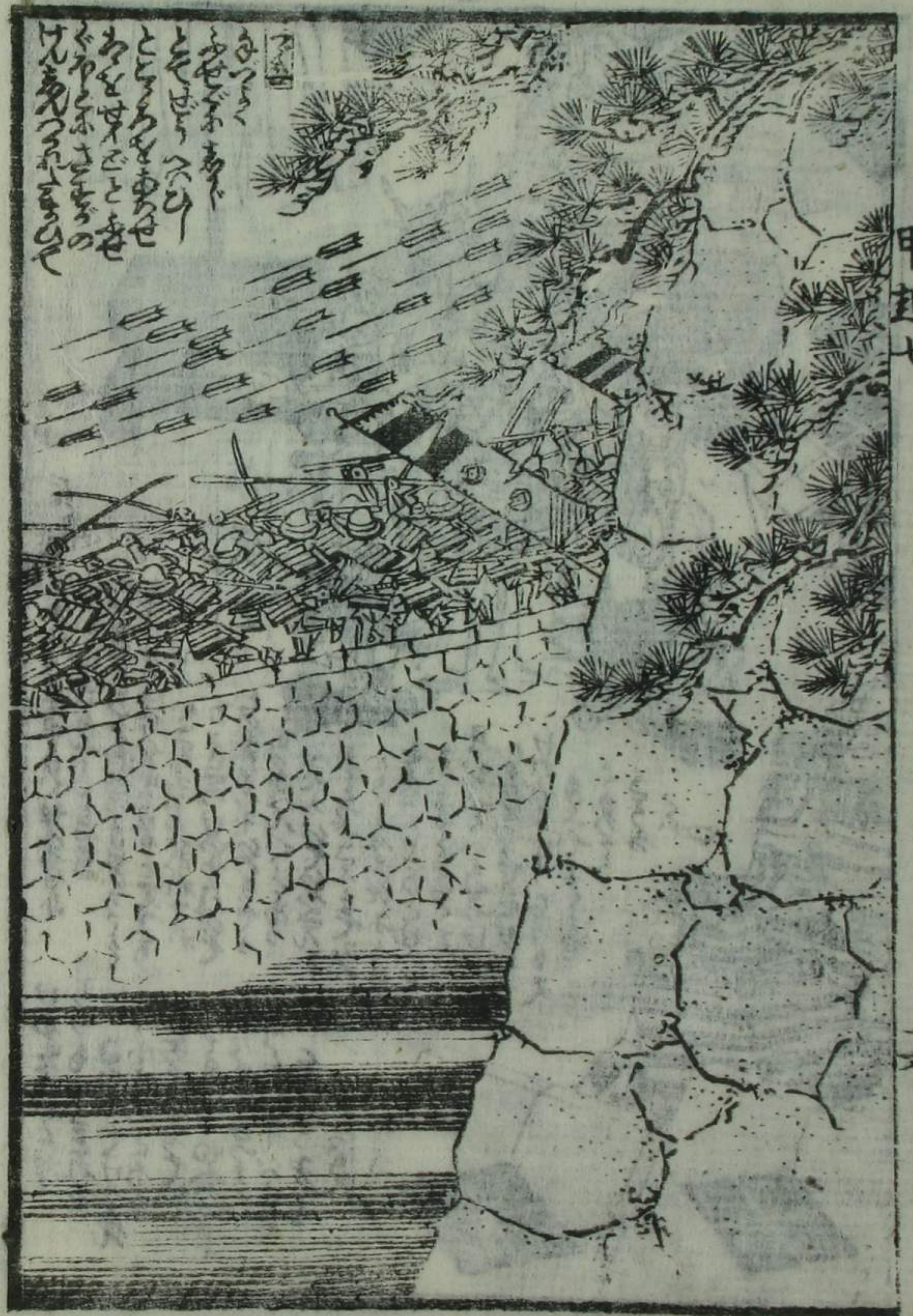
大熊某  
 武人伝記の物語に  
 大熊某の事ありけり  
 武人伝記の物語に  
 大熊某の事ありけり  
 武人伝記の物語に  
 大熊某の事ありけり



武人伝記の物語に  
 大熊某の事ありけり  
 武人伝記の物語に  
 大熊某の事ありけり  
 武人伝記の物語に  
 大熊某の事ありけり

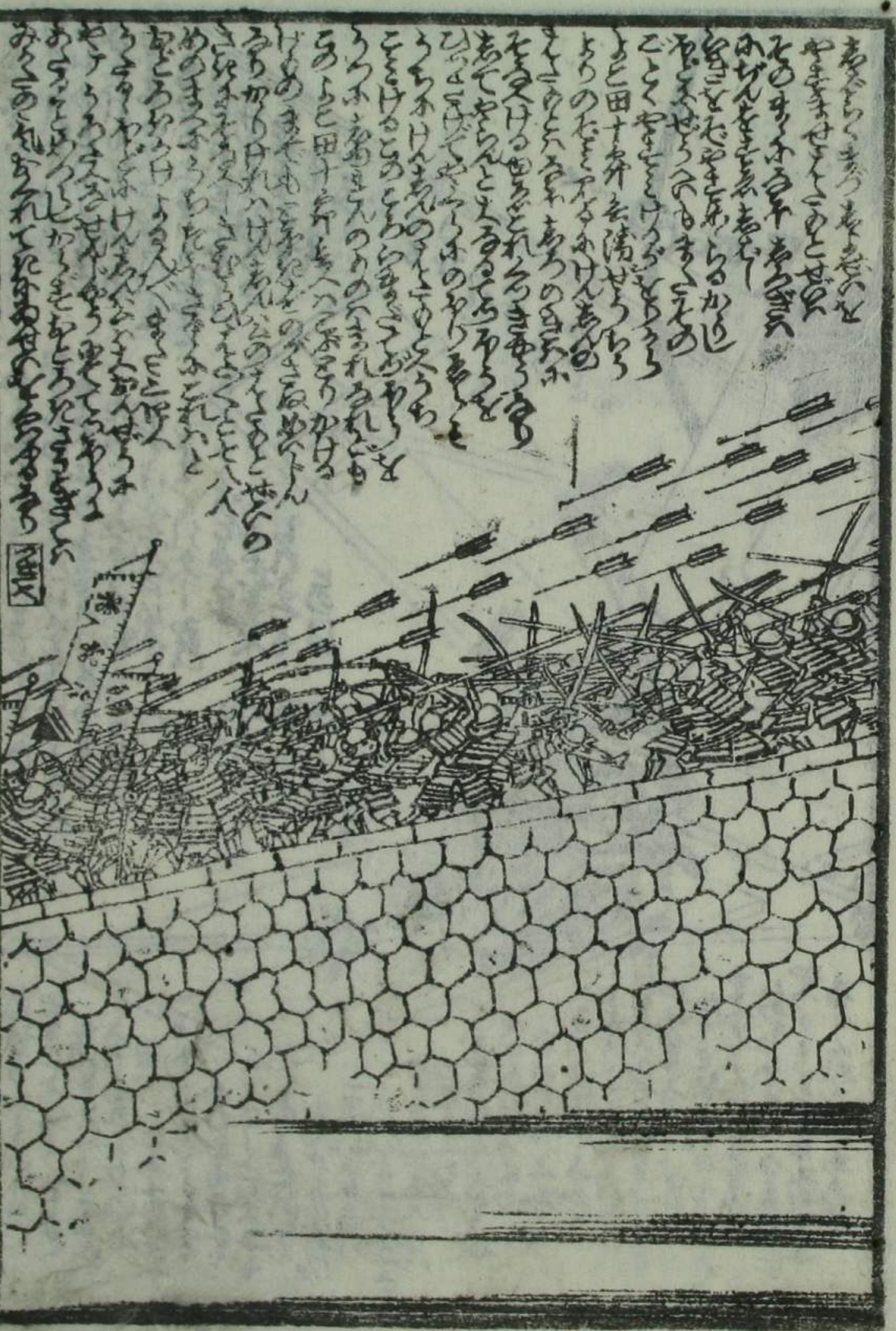






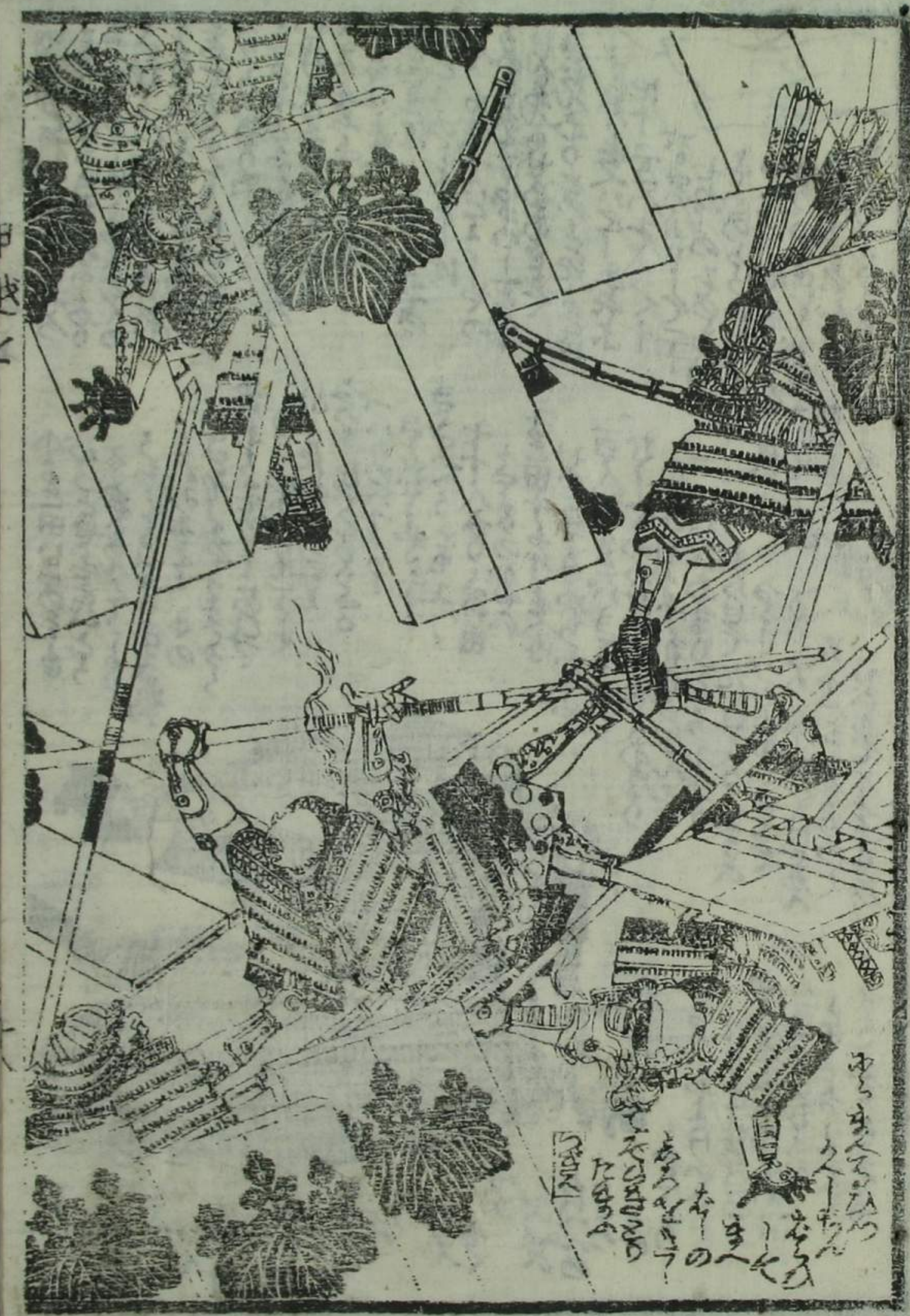
甲越七

あはれなるまうを志すは  
 やまをせしめてのこがれ  
 そのまふるやあるいふ  
 むぢんをまよきとち  
 けふをたやまあらるかじ  
 やふせうのまきそこの  
 こころやまをせしめての  
 よの田十舟を清せうち  
 よりのむせなるかひあは  
 せしやいなるまありのま  
 せまはるをまあらのま  
 あてせんとするをまあら  
 ひははてせしめてのま  
 うちまけんあんのま  
 こころをせしめてのま  
 うらふまあまのま  
 ろのま田十舟をま  
 けのまをま  
 りかりはれはけん  
 めのまをま  
 めのまをま  
 うまをま  
 るまをま  
 わるまをま  
 あらまをま  
 むのまをま



あはれなるまうを志すは  
 やまをせしめてのこがれ  
 そのまふるやあるいふ  
 むぢんをまよきとち  
 けふをたやまあらるかじ  
 やふせうのまきそこの  
 こころやまをせしめての  
 よの田十舟を清せうち  
 よりのむせなるかひあは  
 せしやいなるまありのま  
 せまはるをまあらのま  
 あてせんとするをまあら  
 ひははてせしめてのま  
 うちまけんあんのま  
 こころをせしめてのま  
 うらふまあまのま  
 ろのま田十舟をま  
 けのまをま  
 りかりはれはけん  
 めのまをま  
 めのまをま  
 うまをま  
 るまをま  
 わるまをま  
 あらまをま  
 むのまをま

甲越七







本ひ三十甲と云  
 一甲のちよと甲十甲  
 と勝とありてむそのま  
 せりてくちりて  
 ちやあくもまて人オまれ



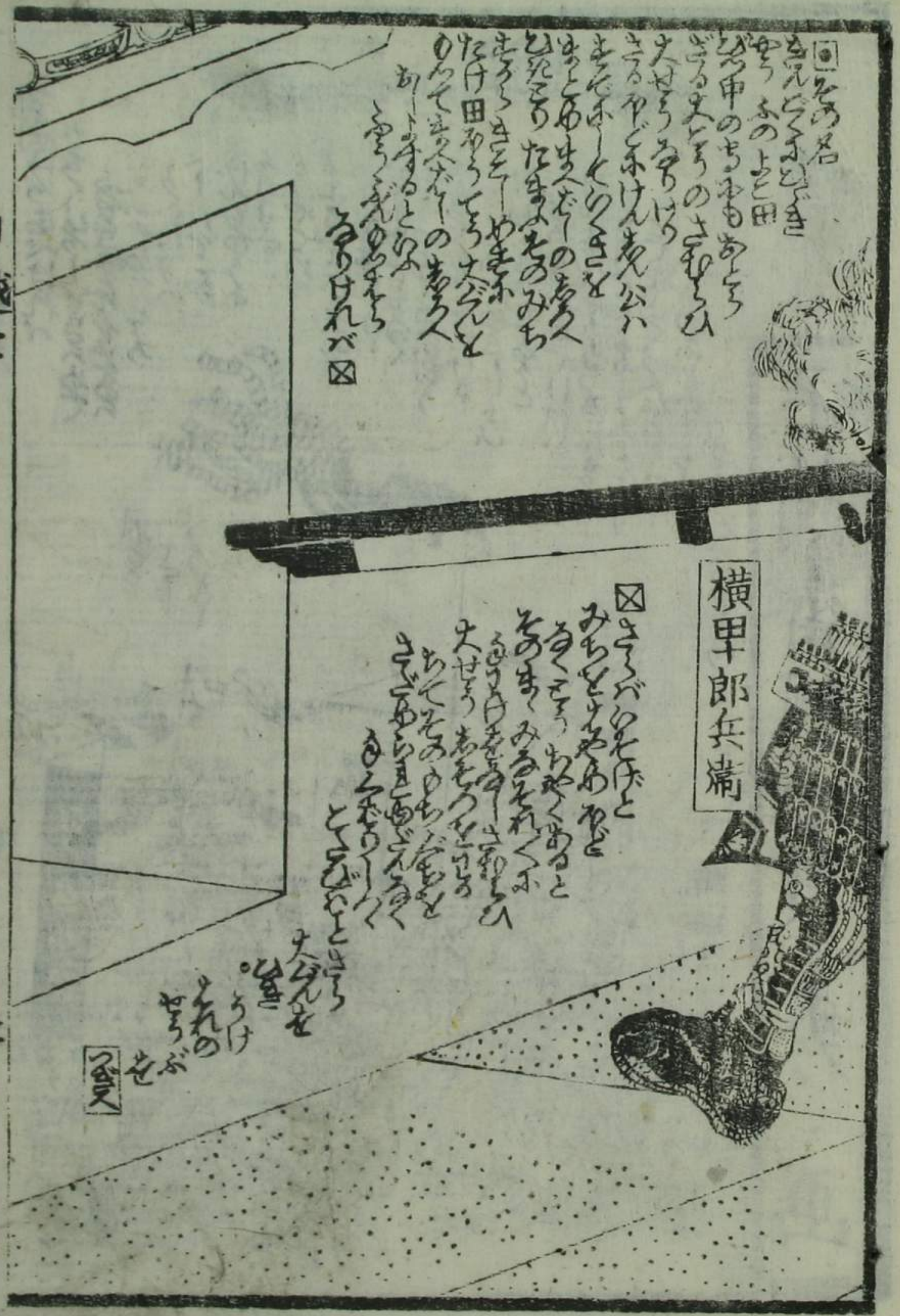
日 表 七

名  
 甲のちよと甲十甲  
 一甲のちよと甲十甲  
 と勝とありてむそのま  
 せりてくちりて  
 ちやあくもまて人オまれ

横甲郎兵衛

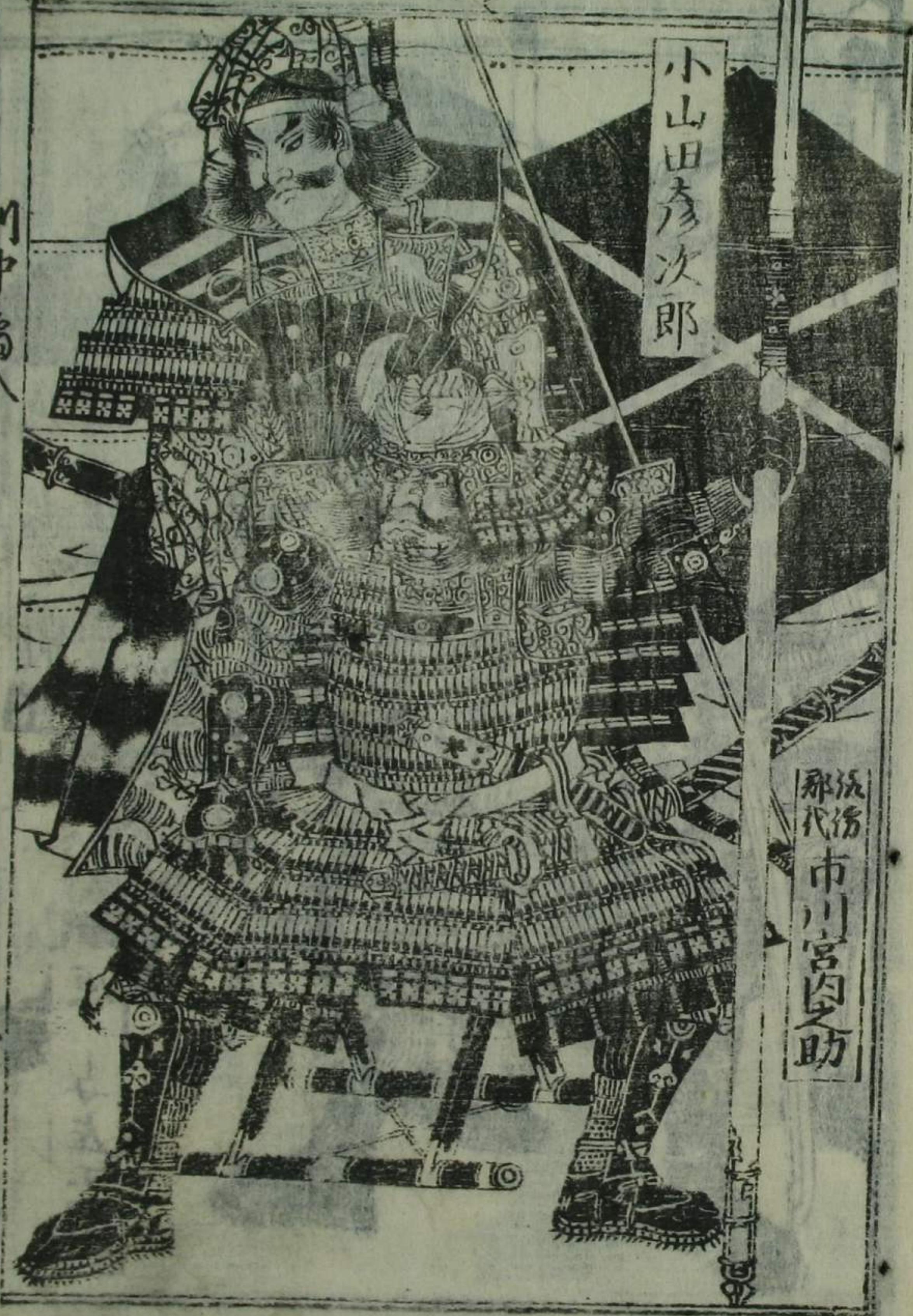
横甲郎兵衛と  
 みちとよめめと  
 ありてくちりて  
 ちやあくもまて人オまれ

大分を  
 ちよけ  
 ちよけ  
 ちよけ



日 表 六

天 福



小山田彦次郎

坂代市川宮内助

川中島

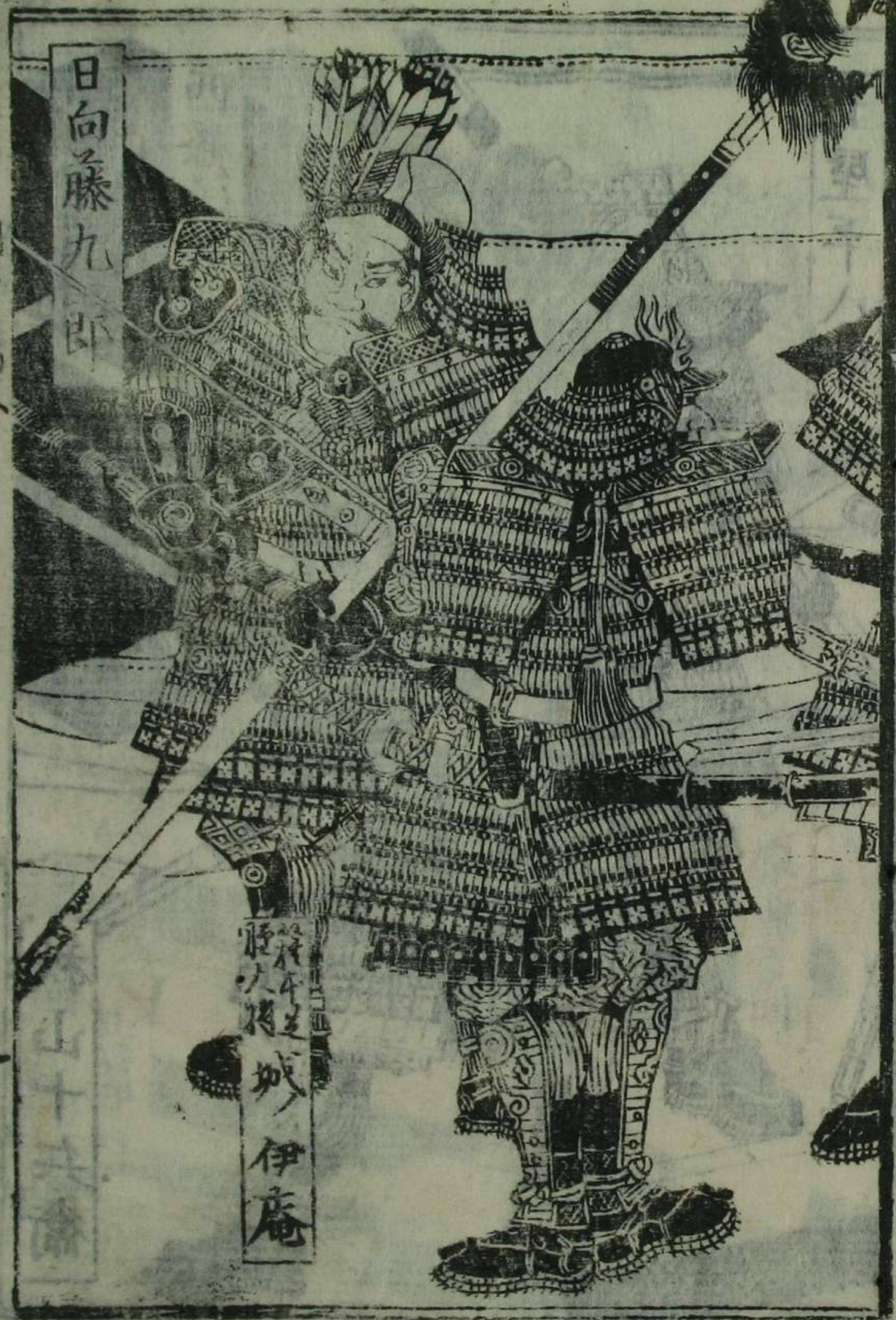


玉蘭齋輯 貞秀画

つぎけりまべけれが  
 み多くしりしとてあめ  
 せうのそめをさる  
 ようたふ  
 べいととも  
 けんちあふ  
 うれしや  
 今やての  
 上るかたを  
 のでまちか  
 方ふやとあ  
 ちうでうのせい  
 こまをいよせける  
 よりのたのまむ  
 たわりのあ  
 ちうあてけれ  
 けんあふあたま  
 けんあふあたま  
 とまむくつあふ  
 のあふあふ  
 のあふあふ

日主

五



日向藤九郎

伊庵  
城  
將  
大  
臣

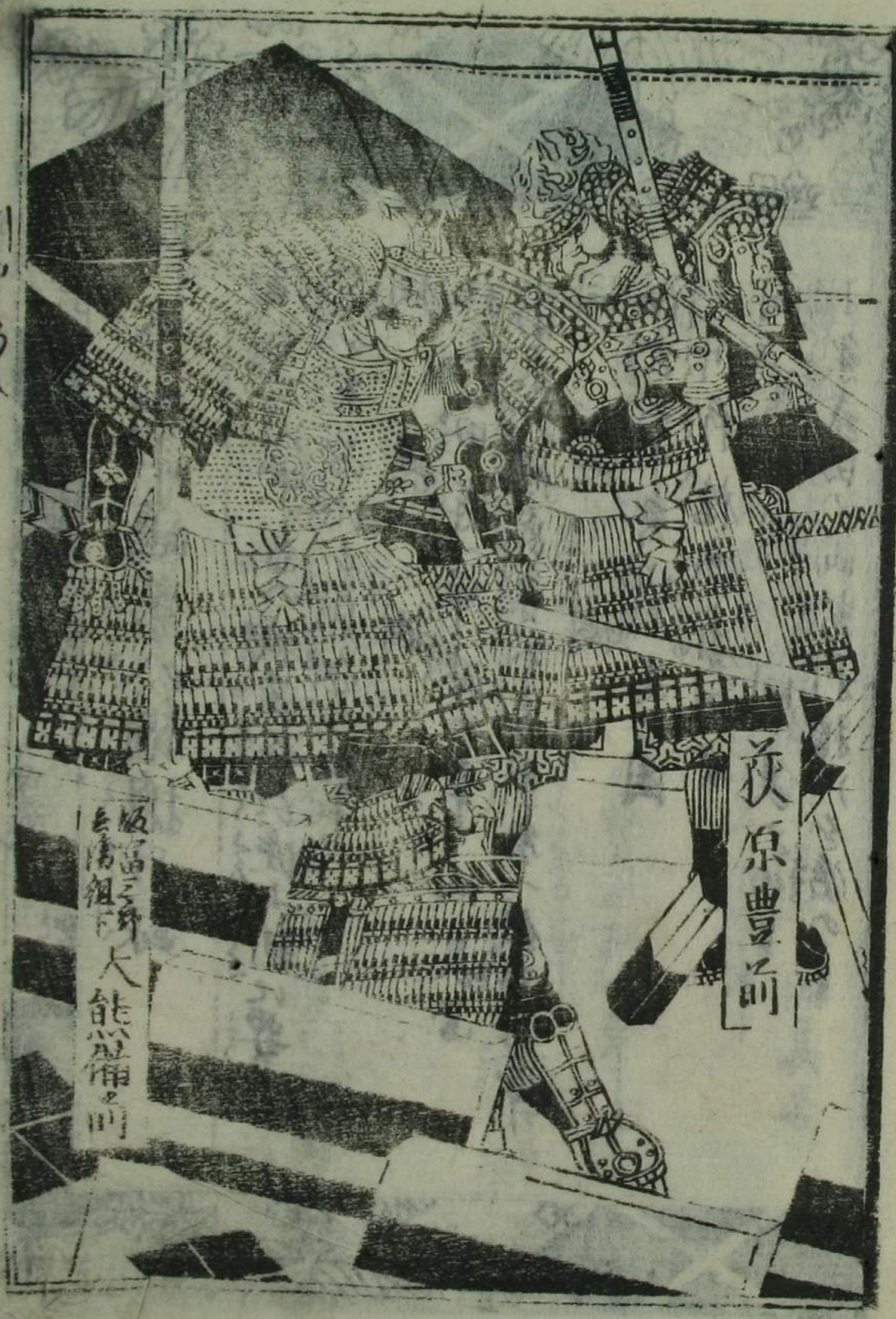
山  
十  
六  
郎



長坂弥五郎

城  
忠  
兵  
衛

原  
与  
左  
工  
門



萩原豊前

坂田三郎大能登前



土屋平八郎

西條治少輔

秋山十兵衛

繪本川中嶋第八編摠目錄

信玄公川中嶋の戦後信玄は渡不新に要害  
警を立この地を以分の事

同 其 園

信玄公甲府へ帰陣の事 同 其 事

小田東北條氏系公より甲府へ使節の事

同 其 園

信玄公甲府に生馬の園

上州新橋城責の事

同 其 園

小糸武田の両勢利根川を渡の事

輝虎公信玄將の勇と制せらるる事 同 其 事

小條家の片尾橋城に落ちて御の事

同 其 園

小糸方の働を以て武田の勢批判の事

信玄公今川氏真と中絶くある事

謙信公氏康の子息重吉の事より氏田上取ある事

和隆公のいざる事

信玄公の病系の子

氏康公信玄公對陣ありる場美濃ちち柄  
の事 同 其 園

摠目錄終



此の如く... 信玄公の... 旗を... 見れば... 知るべき... 事あり... しかるに... 此の如く... 信玄公の... 旗を... 見れば... 知るべき... 事あり...

信玄公



北條氏康之像  
氏康公の像

北條氏康

此の如く... 北條氏康の... 像あり... 見るに... 知るべき... 事あり... しかるに... 此の如く... 北條氏康の... 像あり... 見るに... 知るべき... 事あり...













此の寺は...  
 大蔵の...  
 此の寺は...  
 大蔵の...  
 此の寺は...  
 大蔵の...

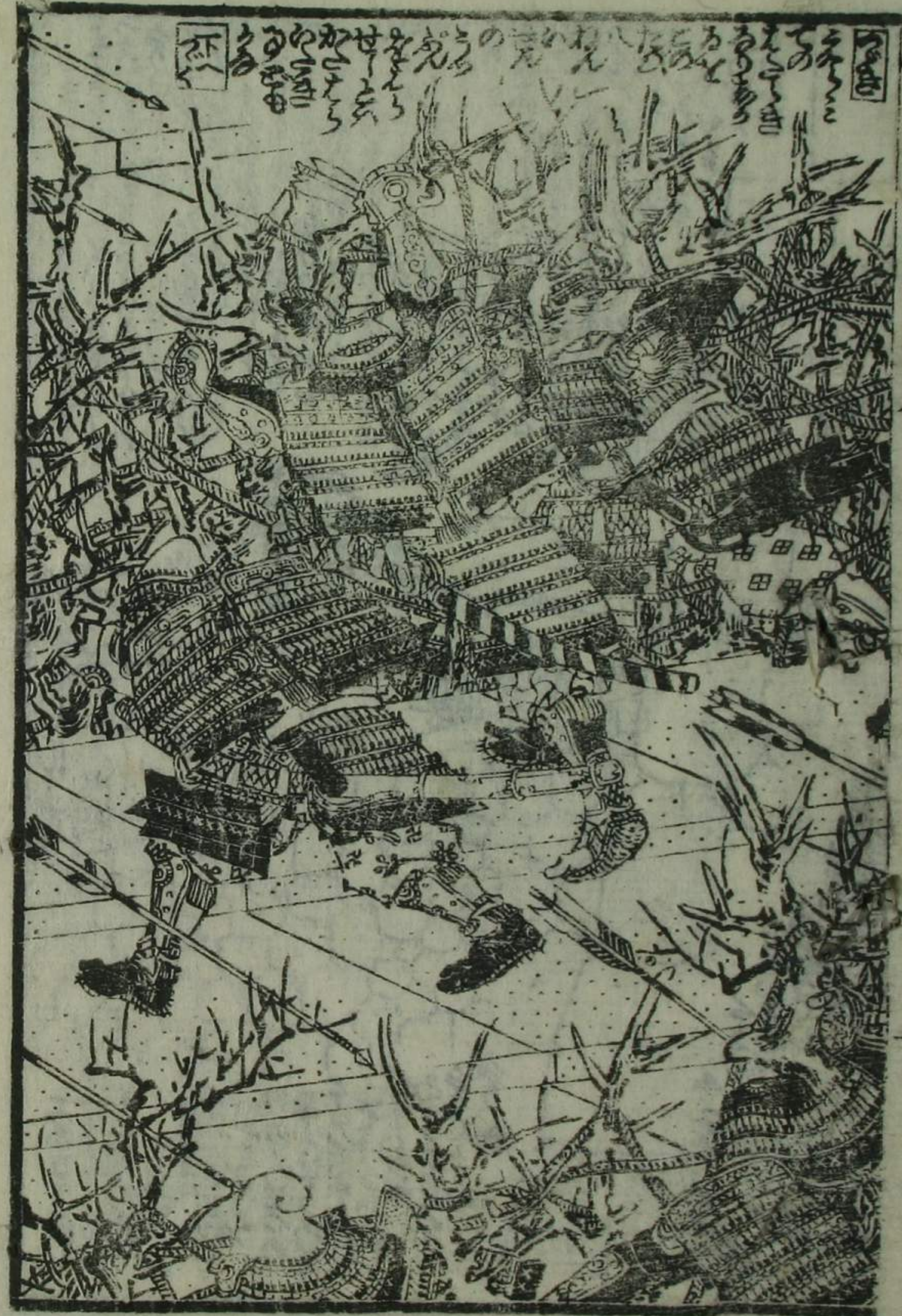
田舎の...  
 此の寺は...  
 大蔵の...  
 此の寺は...  
 大蔵の...



此の寺は...  
 大蔵の...  
 此の寺は...  
 大蔵の...  
 此の寺は...  
 大蔵の...

此の寺は...  
 大蔵の...  
 此の寺は...  
 大蔵の...  
 此の寺は...  
 大蔵の...

五



5

